

# 名古屋「ナディアパーク」の花、 ベトナム人技能実習生のホアさん

## Vol.2 大成(株)

昨年4月の技能実習制度の認可を見越し、早くからベトナムに駐在所を置くなどして準備を進めた大手ビルメン企業の大成株式会社（本社：名古屋市、加藤憲司社長）。ナディアパーク配属のホアさんはじめ、現在13名が活躍中。同社はその受け入れや教育のノウハウを生かし、他社に対する実習生受け入れのサポート業務も開始した。



### ビルメンに興味を持ち 憧れの日本へ

名古屋市を代表する商業の中心地・栄。多くの商業施設が建ち並ぶ一角に、複合商業施設「ナディアパーク」はある。1989年に名古屋市中で開催された世界デザイン博覧会を契機に発表された「デザイン都市宣言」に盛り込まれた事業の一環として1996年10月竣工。若者たちの芸術文化活動の核として、総合的なデザイン創造発信の場として利用されている。

施設はデザインセンタービル（地上12階、高さ70m）とビジネスセンタービル（地上23階、高さ108m）で構成され、地下1階から3階のショッピングエリア「クレアール」にはファッション関係などの店舗が入居する。

そんな多くの人が行き交う名古屋の文化の発信地に、昨年12月、一人の女性のベトナム人技能実習生が配属された。グエン・ティ・ホアさんだ。

彼女の主な仕事はこの施設の日常清掃。午前地下1階から2階

の作業を行い、午後はオフィス棟で掃除機がけやごみの回収を行う。ときには床の表面洗浄作業を行うこともあるとのこと、華奢な身体ながらポリリッシャーも回せるという。

ベトナム人にとって、日本は憧れの国。技能実習制度を活用して来日する若者も多いが、まだそれほど注目されていないビルメンテナン스에、ホアさんさんは興味を持ち、日本にやってきた。

### 独力で提携先を開拓し マナーと基本作業重視で教育

大成は、技能実習制度に早くから着目し、ベトナムの首都ハノイにて駐在員事務所を設け、スタッフを派遣するなど、認可の下りる1年以上前から準備を進めてきた。通常、日本の受け入れ機関となる事業組合の仲介で送り出し機関を決めるところを、同社は独力で探して提携先を決めた。

そして昨年4月、ビルクリーニング職種が認可されると、すぐに現地で面接を行う。ホアさんはそのとき採用した第1期生13名の

うちの1人である。

採用が決まると、実習生は提携先の日本語学校で、約半年かけて日本語や専門教育を学ぶことになる。大成のカリキュラムはマナーと作業の基本を重視。テキストも現地に派遣されたスタッフが日本語、ベトナム語、イラスト入りのテキストを手づくりで作った。

今年5月にベッドメイクが解禁されると、得意先のホテルと同仕様のベッドを現地に持ち込み、カリキュラムに組み込むなど、実践重視の姿勢がうかがえる。

研修期間中、何が難しいと思ったかをホアさんに聞くと、やはり挨拶などのマナー面だったという。もちろんベトナムにだって挨拶の言葉はあるが、ベトナム語には尊敬語や謙譲語はほとんどないため、その使い分けが理解しにくかったようだ。

### 日本人と変わらぬ働きぶり メインのアトリウムを担当

ツインタワーの中央部は吹き抜けのアトリウムになっており、人が多く集まる開放的な空間となっ

## ホアさんにインタビュー

日本の食べ物で好きなものは焼肉とたこ焼きです。行ってみたいところは広島宮島の宮島です。ベトナムで日本語を教えてくれたハシモト先生はその近くから来ました。そこを見てみたい。

3年間日本で勉強して、ベトナムに帰ったら日本の会社で働きたいです。お金を貯めて、家族の生活を改善したいです。将来は、観光ガイドになりたいです。子どもの頃からの夢です。



ている。朝7時から11時半までダスターがけ、ごみ回収、階段の手すり拭き、ガラス清掃とさまざまな作業をこなす。ダスターは、自身の背丈以上もある幅の広いものを使う。ホアさんは、落ち着いた慣れた手つきで床面を走らせる(写真)。

施設の顔ともいえる場所を、なぜ実習生に担当させるのか。

「特に理由はありません。目立たないところをやるよりも、逆に目立ったほうがアピールにもなると思いますし……」

そう語るのは、同社ナディアパーク現業所の水野秀樹所長だ。実習生にどんな作業を担当させるかは現場責任者の判断に委ねられ、水野所長指導のもとで清掃技術の腕を磨いている。

昨年12月半ばにここに配属され、ひと月ほど先輩から手ほどきを受けてからは、まさに一人前のスタッフとして仕事を任されているのだ。

日本人スタッフを採用するのと変わりませんかと聞くと、「変わらないですね」と水野所長は即答。ダスター、スクイジー、定期作業など業務に必要な作業はほぼできるし、テナント入室時の挨拶や、トイレの場所を聞かれるなどの接客対応も、問題ないという。

水野さんはどんな人ですかと聞くと、「仕事中は厳しいです。あとはとても親切」とホアさん。指導に実習生も日本人もないのだ。

## 専門のベトナム人を採用し生活面もフォロー

職場は年配のスタッフがやはり多く、娘(あるいは孫?)のような感じで会話をするという。ホアさんの最初の印象も、とても好印象だったという。「お客様の評判もとてもいいです」と水野所長。

外国人技能実習生を配置することに難色を示すお客様もいると聞くと、少なくともナディアパークにおいては抵抗なく、すんなり受け入れられたという。

「とにかく性格が明るいところがいいですね」と水野所長も太鼓判を押す。

どんなところに仕事の楽しさやおもしろさを感じるか聞いてみると、「お客さんと挨拶すること」と答えてくれた。どうやら人と話すことがとても好きらしい。

宿舎は会社が用意した社員寮。1期生13名が4グループに分かれて同居する。大成は1現場に1

実習生が基本。13名はそれぞれ別々の現場へ地下鉄などを利用して通勤する。

ホアさんは4人部屋に住んでいるが、出勤時間はバラバラ。休日は、同僚と一緒にごはんをつくらったり、おしゃべりして過ごすという。家族とはインターネットで連絡が取り合えるので、それほど寂しくないとのこと。

こうした寮生活などの生活指導は、通常なら事業組合などが行うというが、同社は専門のベトナム人スタッフを位置づけ、きめ細やかなサポートを行っている。

「生活上で何か悩みがあれば、私に相談することになっていきます。週に2回は寮を訪問するようにしています」

そう話すのは、専門スタッフのチャン・ティ・トゥイ・ロアンさん。1期生の入国に合わせ、昨年10月に採用された。日本の国立大学大学院卒の才媛で、学生時代に事業組合で、技能実習生が学ぶテキストの翻訳などのアルバイトをしていた。面談などを通して実習生の悩みも理解している。

「例えば、風邪を引いたとか、

歯医者に行きたいとかいう場合には、付き添いをしてあげます。わからない日本語があれば、メールや電話がかかってきたり……」

確かに体調が悪くなれば、誰だって不安になる。そんなときには心強い存在だ。

**構築したスキームを活かし、他社の受け入れもサポート**

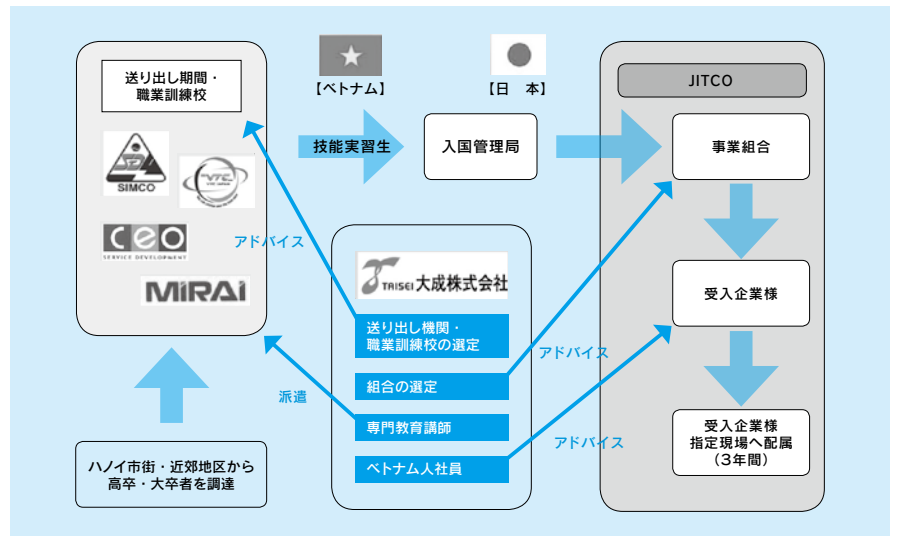
ロアンさんは経営企画本部の企画部に所属。この部署がハノイと日本を行き来して、技能実習事業を推進している。昨年来日した1期生13名に続き、今年11月に2期生11名が来日する予定で、現在、52名の受け入れが決まっている。

同社はまた、独自で事業を進めてきたノウハウを活かし、自社以外にも技能実習生受け入れサポートを実施。すでに6社32名の受け入れが決まり、年内までに10名の受け入れの予定だ。

最初は協力会社に呼びかけてサポート事業を始めたが、口コミによって取り引きのない全国の企業からも声がかかるようになった。

同社の技能実習受け入れスキームは図のようになっていいる。送り出し機関や職業訓練校についての

大成(株)のベトナム人技能実習生受け入れスキーム



アドバイスのほか、同社スタッフによるマナー教育や専門教育、受け入れ事業組合の相談、入国後のサポートなども行う。

関心ある企業に対しては、まずはベトナムという国、人柄、教育風景などを知ってもらうため、現地（ハノイ）を案内。その後、候補者の募集と現地面接の段取りを進める。実際に来日し、企業に配属されるまで9か月ほどかかる。

**グローバル企業をめざし、帰国後の仕事の間も提供**

大成は現在、事業戦略として「グローバル企業への挑戦」を打ち出している。国内で培った強み

を活かしてアジアに展開していくというものだ。その一つの布石として、昨年12月に、ベトナムのビルメン会社の株式70%を取得し子会社化した。

人手不足だから外国人、という安易な発想ではなく、日本で学んだ実習生が帰国後、この仕事で活躍する土壌を造成する。

上から目線で東南アジアの伸びとを見るのではなく、日本とアジア近隣諸国がパートナーシップで業界の発展を考える。大成の推進する技能実習生受け入れ事業は、そんなビルメンテナスの「新しい時代の形、を見すえた取り組みということもできる。



左から水野秀樹所長、グエン・ティ・ホアさん、チャン・ティ・トウイ・ロアンさん

《技能実習に関する問い合わせ》

大成株式会社 経営企画本部企画部  
TEL：052-242-3218